

令和6年度 アンケート結果のまとめ

- 以下の説明の際、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の2つの回答合計の割合を示す。
(A評価…80%以上、B評価…60%以上、C評価…40%以上、D評価…40%未満)

1 学校経営

- ・各項目において、自己評価・学校関係者評価ともに「A」評価であり、校長の経営方針に従って、本校の充実した教育活動が評価されている。
- ・生徒アンケート項目「私は毎日充実した学校生活を送っている」の割合が94.8%、保護者アンケート項目「子どもは毎日充実した学校生活を送っていると思う」の割合が92.4%、と共に高い評価を得ており、学校生活全般に対する満足度が高いことがうかがえる。
- ・「学校は子どもの学力向上について熱心に取り組んでいると思う」と答えた保護者の割合は昨年度79.7%から80.2%とわずかではあるが上がり、「A」評価となった。引き続きTeamsを活用した課題や一人一台端末を活用した授業改善など、取組の工夫が求められる。また、11月に実施している「PTA学校開放日」を保護者等に一層周知し、普段の授業の様子を参観いただくよう働きかける工夫の検討が必要である。

2 学習指導

- ・生徒アンケート項目「わからないところは先生（または友人・家族等）に質問するようにしている」の割合が84.9%で、前年度81.8%を大きく上回った。わからないままにしておかず、積極的に解決したいという気持ちの生徒が増えつつあると思われる。
- ・その他にも「宿題や課題の提出期限を守っている」の割合が95.5%と高い数値を示している。期限や締切を意識し、自ら計画を立てて取り組む習慣が定着していることを示している。しかしながら、「課題や宿題の量・内容は適切であると思う」の項目では、昨年度81.2%であったのに対し、今年度は78.0%と大きく下がった。量や内容が生徒の負担になりつつあるのではないかと推察される。教員はこのことを認識し、他の教科と連携しながら情報を共有し、課題や宿題の量・内容の適正化を図る必要がある。
- ・「学習習慣の確立」の項目において、生徒アンケート項目「予習・復習をするようにしている」では38.6%、保護者アンケート項目「子どもが家庭で学習している姿を以前よりよく見る」では60.0%で、どちらの項目も昨年度より下がった。しかしながら、教員アンケート項目「学習習慣の確立と家庭学習の充実に向けた、きめ細やかな指導を行っている」の割合が89.1%となっていることから、生徒・保護者の評価と、教員の評価に大きな差があることがうかがえる。現在行われている学習時間調査やスタディ・サポート等のデータをもう少し丁寧に分析して、生徒の実態を正確に把握し、効果的な方法を考え具体化していく必要がある。学校運営協議会でも話題となり、総意として学校関係者評価は「B」となった。

3 生徒指導

- ・各項目において、自己評価・学校関係者評価ともに「A」評価である。
- ・生徒アンケート「約束や規則を守り他人に迷惑をかけないように心がけて生活している」の割合が98.1%と高評価であった。過去5年で最高評価である。規律の遵守に努め、規範意識の高い生徒が多いことがわかる。このことが、現在の校風につながっているものと思われる。
- ・いじめに係るアンケート（年3回実施）を活用し、丁寧な個別面談を実施するなどして、いじめの早期発見・早期対応に努めていることから、今年度は「いじめ対策委員会」を開催する事案が発生していないので、生徒アンケート項目「学校はいじめ防止や、生活アンケートなどを通していじめの早期発見に努めていると思う」の割合は88.6%で、過去5年で最高評価となっている。この結果に満足することなく、引き続きいじめの未然防止等の取組（啓発活動、アンケート等）をより一層進めていく。

4 進路指導

- ・各項目において、自己評価・学校関係者評価ともに「A」評価である。
- ・生徒アンケート項目「学校では進路に関わる情報が提供されている」の割合が92.5%、「先生は進路についての話や適切なアドバイスをよくしてくれる」の割合が85.4%とこれらの項目も過去5年で最高評価となっている。しかしながら、「卒業後の進路についてはっきりとした目標

が定まっている」の割合が、昨年度76.1%であったのに対し、今年度72.4%と下がっている。教員が適切な進路指導を行っていても、生徒が目標を定めるには至りにくい現状がうかがえる。現在のキャリア教育の在り方を見直すことも必要である。

- ・昨年度の反省にも記述したように、保護者に対する情報提供の機会をどのように増やせばよいかの検討を引き続き行う。また、三者懇談会、保護者進路説明会、HP等でどのような情報を提供すればよいかについても協議を重ね、情報が十分に伝わるよう工夫していく。

5 特別活動等

- ・一昨年度課題として挙げられていた教職員アンケート項目「教職員の共通理解と協力体制の下、部活動の活性化が図られている。」の割合が一昨年度78.0%から93.0%と改善がみられたものの、本年度については78.2%と大幅に下がった。各顧問の部活動への意識改革や、業務の割り振り等が進んだものの、実際には家庭事情や分掌業務等で顧問内の業務負担に偏りが生じている結果とも言える。外部指導者の申請を含め、協力体制の構築をはじめとした改善策の検討が急務である。学校運営協議会でも話題となり、教員の評価も「B」評価であることから、総意として学校関係者評価は「B」となった。
- ・生徒アンケート項目「部活動にやりがいを感じている」の割合が昨年75.5%であったが、本年度は78.5%、保護者アンケート項目「学校での部活動に生き生きと取り組んでいる」の割合が昨年度78.5%であったが、本年度は81.1%であった。昨年度の反省を生かし、生徒がより高い目標をもって主体的・意欲的に取り組めるよう効果的な指導・支援の在り方を模索し、改善を現在も継続中である。

6 学校図書館

- ・生徒アンケート項目「学校図書館を利用したことがある」は56.8%、「教科の課題も含めて月に1冊以上の書物（マンガを除く）を読んでいる」は41.4%と、昨年に引き続き、共に低い評価となった。教員の意識としては、司書を中心に、生徒の読書傾向を探り、特別企画を行ったり、図書・視聴覚教材を活用したりするなど、積極的に取り組んでいるため、教職員の自己評価は「A」評価となっている。したがって、教員と生徒の意識にかなりの差があるため、「読書習慣を身に付けさせるための活動ができていない」という項目について、総意として、学校関係者評価は「B」となった。
- ・昨年度の課題にも挙げていたが、近年SNSやスマートフォンの普及により、書物や新聞、漫画でさえ「デジタル化」が進んでいるため、わざわざ学校図書館に行き書物を手に取る必要がなくなる傾向にあることは言うまでもない。そのような中、読書習慣を身に付けさせるための活動について、どのような改善策があるのか、今後も検討が必要である。

7 保健・安全指導

- ・各項目において、自己評価・学校関係者評価ともに「A」評価である。
- ・注目すべきは、生徒アンケート項目「私は悩みや相談事があれば気軽に話せる先生がいる」の評価が年々上昇している。直近5年間の推移を見てみると、2020年度は58.1%、2021年度は58.5%、2022年度は60.1%、昨年度は66.4%、そして今年度は68.4%である。悩みを抱える生徒や支援の必要な生徒にとって、先生方が頼れる存在であり、保健室と学年が連携して、丁寧に対応している結果が徐々に表れてきていると思われる。生徒が安心して高校生活を送れるよう、この項目については今後も注目し、引き続き丁寧な対応を継続する。

8 人権教育

- ・各項目において、自己評価・学校関係者評価ともに「A」評価である。
- ・生徒アンケートにおける人権教育に関する項目「学校の人権学習を通して人権尊重の意識が高まったと思う」「学校は人権学習について熱心に取り組んでいると思う」が、例年に引き続き高い評価となっている。本校の人権に関する年間計画は非常に緻密で、3年間で身に付けさせたい学習内容をしっかり取り組ませている。

9 環境教育

- ・教職員アンケート項目「清掃活動を通して、環境問題を視野に入れた学校行事を意欲的に行っている」について「B」評価となった。一方、生徒アンケート項目「教室や担当箇所の掃除当番に当たっているときは必ず掃除をしている」「ごみの分別に配慮し、教室の整理・整頓に心がけている」の評価はそれぞれ97.6%、97.7%であり、清掃については9割7分以上の生徒がし

っかり取り組んでいる。実際の掃除担当者から見てみれば、十分であるとは言えない現状であるため、差が生じたものと思われる。したがって、総意として、学校関係者評価は「B」となった。

- ・総合的な探究の時間等を利用しながら、掃除当番でなくても、学校という公共の場の学習環境において、生徒一人ひとりが学習環境に意識を向けるような工夫が必要である。

10 事務・管理

- ・各項目において、自己評価・学校関係者評価ともに「A」評価である。
- ・施設の老朽化が激しく改修の必要な箇所が多い現状がある。安全衛生委員会等で、施設・設備の環境整備について協議をしており、緊急性に応じて速やかな対応をされている。

11 その他学校の取組み

- ・各項目において、自己評価・学校関係者評価ともに「A」評価である。
- ・今年度は学校運営協議会（コミュニティ・スクール）導入4年目で、大変充実した協議会を開催することができ、開かれた学校づくりを進めることができた。学校運営協議会委員の皆様からは、教員視線では気づかない部分に助言をいただけている。次年度も引き続き特色ある教育活動の充実に努力していく。